



(2) 正しい職業観と明確な進路意識の育成

具体的目標	①保護者・卒業生や上級学校から講師を招き、進路意識を育む。 ②様々な国から講師をまねいて「国際理解講座」を開催し、グローバルな視点を身につけさせる。 ③自らの進路を主体的に切り開く能力を涵養できるよう、新たなプログラムを研究開発する。 ④3年間を通じた探究活動を充実させる。	
本年度の取り組み	①キャリア教育の一環として、「進路を考える日」・「体験入学」・「職場見学会」・「マナーアップ講座」・「小論文講座」・「進路説明会」などをオンラインで実施。 ②各界から講師を招き、年5回程度の国際理解講座をオンラインで実施。 ③学校行事と学習活動を結び付ける新たなプログラムを研究。 ④探究活動と入試結果を結びつける体制の研究。	
成果	・「21世紀型学力」を伸ばす、様々な教育機会を提供した。 ・他校に先んじて、オンライン講座やオンライン説明会を実施することができ、キャリア意識を身につけることができた。 ・学校全体で進路指導に当たり、成果を出すことができた。 ・探究活動と入試結果を結びつけることができた。	
反省と課題	・充実した内容の「国際理解講座」が展開できたが、対面の講座が実施できず、回数が減った。 ・新型コロナウイルスの影響でほとんどの学校行事が実施できず、学習活動との連携が図れなかった。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜推薦入試の割合が高いため、より教員の指導力の向上が必要である。 ・「21世紀型学力」を養うための3年間を見据えた早期の進路指導の計画・立案が不十分である。 ・オンライン講座を次年度以降も続ける方向だが、より効果的にするための研究が必要である。	
評価の観点	①進路関係行事の内容 ②国際理解講座の内容 ③行事とカリキュラムの連携の進捗度 ④進学実績	
観点別自己評価	総合評価 <b>3</b> (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1として算出) ①キャリア教育の内容は充実している。 <b>4</b> ②対面の講座が減ったため、例年のような成果が見られない。 <b>2</b> ③相次ぐ行事の中止によって、学習活動と行事の連携がなされなかった。 <b>2</b> ④探究活動の推進により、総合型選抜や学校推薦型選抜推薦入試では成果を収めている。 <b>4</b>	
評価委員会評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	①進路関係行事の内容 ②国際理解講座の内容 ③行事とカリキュラムの連携の進捗度 ④進学実績	① <b>3.5</b> ② <b>2.9</b> ③ <b>2.7</b> ④ <b>3.7</b>
コメント		

### (3) 心豊かな人間性の育成

具体的目標	①地球市民として、円滑な人間関係を築き、生きる力を涵養する。 ②社会の一員としての規範意識の向上を図る。 ③学習活動、学校行事、部活動に主体的に取り組める生徒を育てる。 ④国際性を重視した教育を行う。	
本年度の取組内容	①SDGsの理念を理解できるように文化活動発表会のテーマの柱とした。 ②今年度から生徒会にユネスコ委員会を設置し、ユネスコ部と各クラスのユネスコ委員と連携し、SDGsのマインドを全校生徒へ広める工夫をした。 ③生徒会と学級委員が主体的に学校活動に取り組める工夫をしている。さらに、取り組んだ内容を全校生徒に発信し、「見える化」している。 ④今年度は新型コロナウイルスの影響で国際交流が限定的となり、3カ国4校と姉妹校・協力校交流をオンラインで行った。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの理念についての理解が進んでいる。</li> <li>・社会の一員としての生徒の規範意識が高まりつつある。</li> <li>・自ら設定した研究テーマに対して、主体的に取り組む姿勢が養われている。</li> <li>・学校行事と教科指導の中にSDGsの観点を取り入れようとする意識が高まっている。</li> <li>・違いをそのまま受け入れるという素晴らしい能力が育ちつつある。</li> </ul>	
反省と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会と学級委員がまだ生徒主導で活動できるまでに至っていない。将来的には、上級生が下級生に引き継いでいける組織作りを目指したい。</li> <li>・18歳成人となる時代において、従来の「指導」ではなく、大人としての「気づき」ができるようにするには何をすべきか考える必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で、人との交流ができず、豊かな心が育める環境が十分に整えられなかった。</li> </ul>	
評価の観点	①他を受け入れようとする寛容性とコミュニケーション能力の涵養 ②生徒の自主性と行事の運営度 ③教育支援制度の充実 ④国際交流の内容	
観点別自己評価	総合評価 <b>3.5</b> (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1として算出) ①9カ国がともに学ぶ環境において、寛容性が養われている。 <b>3</b> ②学校行事に生徒が主体的に取り組むようになっている。 <b>3</b> ③キャリア教育を見据えた教育支援制度が充実されつつある。 <b>4</b> ④国際交流の内容は充実している。 <b>4</b>	
評価委員会評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	①他を受け入れようとする寛容性とコミュニケーション能力の涵養 ②生徒の自主性と行事の運営度 ③教育支援制度の充実 ④国際交流の内容	① <b>3. 3</b> ② <b>3. 2</b> ③ <b>3. 6</b> ④ <b>3. 6</b>
コメント		

(4) 教育環境の充実

具体的目標	①教育施設のさらなる充実を図る。 ②ICT教育推進のための情報環境の増強を図る。 ③より効果的な学習環境の整備。 ④「21世紀型学力」を伸ばす環境整備。 ⑤文化芸術を通して、豊かな感性や創造力を養う。	
本年度の取組内容	①体育館の換気設備工事実施、ピロティの人工芝の張り替え工事実施、ピロティのLED化工事実施、体育館の自動水栓手洗い場工事実施。 ②普通教室及び主要特別教室の無線LAN工事、ホワイトボード・プロジェクターの維持管理。 ③普通教室のツインプロジェクター設置の追加工事中。 ④各フロアに新聞を配置し、「21世紀型学力」および社会意識の涵養を図る。 ⑤絵画など芸術作品の追加とやすらぎスペースの整備。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の換気扇工事により熱中症および新型コロナウイルス対策ができ、さらに、体育館の自動水栓手洗い場工事により新型コロナウイルス対策ができた。</li> <li>・ピロティの人工芝張り替え、およびLED化により、授業や部活動で生徒の安全が確保できた。</li> <li>・全学年でiPadを導入した結果、様々な形の授業が実施されている。さらに、ツインプロジェクターの設置によってより効果的な授業が展開できている。</li> <li>・プロジェクターとホワイトボードを有効活用することで、授業の効率化をはかることができた。</li> <li>・自宅学習日においてもオンラインを活用し、教科指導だけでなく担任や学年との連絡、面談等に活用できた。</li> <li>・「21世紀型学力」を養うために、新聞の購読は効果的であることが立証されつつある。</li> <li>・芸術作品を増やし、文化を楽しむ感性が養われている。</li> </ul>	
反省と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の利用状況に対する活動場所確保が必要である。</li> <li>・最先端のICT環境構築のため、情報室の設備を更新し続けていく必要がある。</li> <li>・オンライン授業やオンライン面談のための教室（スタジオ）が不足した。</li> </ul>	
評価の観点	①教育施設の整備 ②ICT環境の整備 ③オンライン使用教室の整備 ④「21世紀型学力」および社会意識の涵養 ⑤芸術作品追加とやすらぎスペースの整備	
観点別自己評価	総合評定 <b>3.2</b> (大変良い=4、良い=3、悪い=2、大変悪い=1として算出) ①生徒数に対して施設の広さが十分とはいえない。 <b>2</b> ②ICT教育の推進のために県内最先端の環境が整っている。 <b>4</b> ③オンライン授業やオンライン面談の使用教室が不足しがちだった。 <b>2</b> ④新聞購読によって、「21世紀型学力」および社会意識が涵養されている。 <b>4</b> ⑤芸術作品追加と休憩時間にくつろげるスペースが整備された。 <b>4</b>	
評価委員会評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	①教室施設の整備状況 ②ICT環境の整備 ③オンライン使用教室の整備 ④「21世紀型学力」および社会意識の涵養 ⑤芸術作品追加とやすらぎスペースの整備状況	① <b>3.1</b> ② <b>3.9</b> ③ <b>3.1</b> ④ <b>3.6</b> ⑤ <b>3.6</b>
コメント		